

学習内容報告書 フォーマット

学校名	宮古市立重茂中学校
授業者	講師 大槌沿岸センター研究員

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

研究テーマの学習（奄美高校交流・磯ラーメン講座）

1-2. 学年

1・2学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

- 1校時 研究テーマの決め方
- 2校時 奄美高校生徒とのリモート交流
- 3校時 「磯」について
- 4校時 「磯ラーメン作り」とデータ収集・分析

別日 研究テーマ決め、計画策定

1-5. 単元設定の理由・ねらい

1年生については半年後に2年生は3月に研究テーマを決める際の観点を学ぶ。また、研究を終えた奄美高校生徒との交流で具体的に調査にあたる際の手法や、課題点を実際に聞くことで調査・研究活動へのイメージを作る。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・様々な課題や困難を乗り越え、夢や希望を持ち、主体的に自己の生き方を考えることができる生徒
- 災害などの困難にも、解決の糸口を見出し、前向きに生きる力
- 自分の将来、重茂の未来、社会の未来を語る力と行動力

1-7. 単元の展開（全6時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>「研究とは・奄美紹介」</p> <p>研究とはどういうものか、どんな調査があるのか、テーマはどのように決めていくかについて、今年度研究を終えた3年生の事例を見ながら説明を受ける。</p>	<p>大槌沿岸センター研究スタッフ</p> <p>感想用紙に記載</p>
1	<p>奄美高校生とのリモート交流</p> <p>本年度研究を終えた高校生から研究内容、テーマ設定の理由、調査方法などを数事例紹介していただき、質疑応答で具体的な研究イメージをもつ。</p>	<p>大槌沿岸センター研究スタッフ</p> <p>感想用紙に記載</p>
1	<p>磯について</p> <p>「磯」の概念について学ぶ。また地域によってもつ「磯」の違いがあることを知る。</p>	<p>大槌沿岸センター研究スタッフ</p> <p>感想用紙に記載</p>
1	<p>磯ラーメン作り</p> <p>30を超える海の具材の中から、グループで磯ラーメンと呼ばれるにふさわしい具材をトッピングし、自身のもつ「磯」の概念を知る。</p> <p>また、そのような身近なテーマが研究の対象となることを体感する。講師がデータを分析し、生徒に占め</p>	<p>大槌沿岸センター研究スタッフ</p> <p>生徒が作った磯ラーメンをデータ化し、生徒に示す。客観的データの有効性や収集の仕方を具体的に示す。</p> <p>感想用紙に記載</p>
2	<p>テーマを決める（2学年）</p> <p>調査の仕方を考える</p>	<p>学級担任</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ




単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

研究テーマを選定するための視点、研究の進め方について学ぶ

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>奄美高校生徒とのリモート交流</p> <p>実際に研究を終えた高校生が体育館に集まり、こちらとリモートでつないだ。テーマごとに代表者が研究の概要、進め方、テーマ設定について説明し、こちらから質問をし、回答を求めるかたちで行った。</p> <p>話をよく聞いていたが質問に関して消極的だった。</p>  <p>磯ラーメン講座</p> <p>磯ラーメンを実際に多数の海の具材から選び、講師に提出をした。その具材のデータをこれまで収集した講師の磯ラーメンの具材と地域性の関連を示すデータに照らし合わせると無意識のうちに生徒は宮古市の人々が考えるデータの範囲に入っていることを知り、驚いていた。また、研究が数値的な細かいデータや難しい知識を使ってするという固定観念を捨て、身近なものに興味を抱き、調べることで研究が成立することを学習した。</p>	<p>積極的な質問を促す</p> <p>研究のヒントとなることを書き留めさせる。</p> <p>好みではなく、自身が考える磯ラーメンという観点でラーメンの具材を選ばせる。</p>  

3. 今回の活動の自己評価

今年度初めて行った遠方の地域の高校生との交流は貴重な体験となった。同じ海と密接にかかわる奄美の高校生ではあるが、海のとらえ方が岩手三陸の人々と異なるがゆえに研究テーマの選定にも違いがみられることを実際に研究テーマを見て知ることもできた。テーマ選定の視点を学ぶとともに「テーマ選定後仮説を立てて調査をする方法があることを学んだ」と記す生徒が多かった。今後の研究を円滑に進めるうえでよい学習となった。

4. 今後の課題

研究を終えた奄美高校の生徒の体験談を聞くことが主になり、中学生からの活発な質問などやり取りを訓練して臨ませるようにしたい。来年度は、2年生は9月から研究を開始し、研究の進め方の交流、1年生はこれまで通り研究テーマを決める心構えについての交流になるよう編成する。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特記事項なし

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。